

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 早川 輝

	主査	教授	藤田	博美
審査担当者	副査	教授	大滝	純司
	副査	教授	玉腰	暁子
	副査	教授	寺沢	浩一

学 位 論 文 題 名

死後の血液中サイログロブリン濃度の値による法医学的診断の有用性に関する研究
(Studies on the use of thyroglobulin concentration in postmortem blood samples in forensic diagnosis)

法医学の先行研究において、頸部圧迫の事例や致命的脳損傷の事例で、心臓血のサイログロブリン (Tg) 濃度が高値を示すとされている。しかし、血中 Tg 濃度が高値を示さないとされる案件にも関わらず、血中 Tg 濃度が高値である事例を経験している。本研究では、血中 Tg 濃度に対する死後変化および採血部位の影響について検討した。死後の Tg の甲状腺よりの漏出・血管を介した拡散によって、血中 Tg 濃度が上昇することが判明した。血中 Tg 濃度を法医学診断に用いる際には死後変化の影響を考慮した上で、末梢の動脈血の血中 Tg 濃度の値を用いることが適していると判明した。

審査にあたり、副査の大滝教授からは、実際の解剖事例における頸部圧迫を認めた事例の血中 Tg 濃度に関する質問と先行研究における診断基準値の使用に関する質問を受けた。副査の玉腰教授からは、本研究の対象事例に関する質問と法医学解剖における血中 Tg 濃度の測定に関する質問があった。副査の寺沢教授からは、他の甲状腺に関するホルモンの血中濃度の値の法医学診断への有用性に関する質問と致命的な脳損傷を認めた群の血中 Tg 濃度の上昇に関する質問があった。主査の藤田教授からは、実際の頸部圧迫を認めた群の末梢の動脈血の Tg 濃度を測定した事例を比較対象にするべきではないかとの質問があった。申請者はいずれの質問に対しても、具体的評価法や知見を用い適切に回答した。

この論文は、血中 Tg 濃度に対する死後変化および採血部位の影響に関する検討において高く評価され、今後の血中 Tg 濃度を用いた法医学的診断の新たな診断基準値の作成が期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。